

令和2年4月1日

令和2年度 全日制課程 学校経営計画

東京都立青梅総合高等学校長
鈴木 信也

教育目標

- 自主・・・自ら学び考え、行動する人間を育てる。
- 創造・・・個性と創造力豊かな人間を育てる。
- 探求・・・自己の在り方生き方を探求する人間を育てる。
- 開拓・・・自らの人生を開拓する人間を育てる。
- 貢献・・・産業社会や地域に貢献する人間を育てる。

1 目指す学校像

社会に出て自信を持って活躍できる生徒を育成する学校を目指し、以下具体的な学校像を示す。

- (1) 多彩な体験学習や実習を通して、自ら学ぶ意欲と創造性をはぐくむ学校
- (2) 産業社会や地域の発展に貢献する力をはぐくむ学校
- (3) 地域と共生し、地域に根ざした、開かれた学校
- (4) 生徒が個性や得意分野を伸ばし、大学・就職等への進路希望を実現できる学校
- (5) 体罰やいじめなどの未然防止の徹底と特別支援教育の整備に取組み、保護者、地域社会から信頼され、中学生やその保護者から選択される学校

2 中期的目標と方策

(1) 学習活動

確かな学力の習得と、目的意識を持った進路実現

- ① 課題解決能力及び主体的に学ぶ姿勢を育む。
- ② 多様な体験的なキャリア教育を推進し、組織的な学習支援を行う。

(2) 進路指導

「自分でつくる、自分の未来」の具現化

- ① 自らの生き方あり方を考え、それを実現させる能力を育成する。
- ② 高大連携を積極的に図り、希望進路実現への道筋とする。

(3) 生活指導・安全指導

高い規範意識を持った主体的な社会の形成者の育成と、安心・安全な学校の確立

- ① 生徒が自立的に社会を形成する主体となる指導を推進する。
- ② 防災教育や環境教育を推進し、生徒の安全と健康に関する指導を推進する。

(4) 特別活動・部活動

変化の激しいグローバル化した時代にあって積極的に人生を切り拓いていく総合的な力の育成

- ① 行事や部活動を通して、人間関係形成能力や自己効力感を高める。
- ② 「アクティブプラン to 2020」に基づいて体力向上策を実施する。
- ③ オリンピック・パラリンピック教育「よいい、ドン！」の学習を進め、国際理解教育を推進して豊かな国際感覚を育む。

(5) 心身の健康づくり

全教職員による指導・協働体制の確立

- ① 教育環境の整備を含め、たくましい心身の健康づくりを推進する。
- ② 教育相談体制を組織化し、学校全体で心身の健康づくりと早期ケアを充実させる。

(6) 募集広報活動

総合学科としての本校教育内容の理解推進と地域への貢献

- ① 本校の特色ある教育活動を積極的に広報し、高い目的意識を持った生徒を確保する。
- ② 地域に期待され応援される学校を目指し、地域の小・中学校や住民・企業等と連携を図る。

(7) 学校経営・学校運営

「見える化」を推進し、教職員が一丸になった教育活動の展開

- ① 組織的な学校運営を図り、教職員が積極的な意見交換できる環境を整備する。
- ② 働き方改革を推進し、また情報共有する中で特色ある総合学科を確立させる。

3 今年度の取組目標と方策

【 新型コロナウイルス感染拡大防止に係る臨時休業期間を補完する教育活動を工夫し実践する。 】

(1) 教育活動の目標と方策

①学習指導（自分で「考えさせる」指導の推進）

- ア ルーブリックの活用等により「考えさせる」授業を一層推進する。
- イ 授業外学習時間の増加を図るため、各教科が工夫した授業展開を推進する。
- ウ 学習状況と成績の推移を分析して、生徒の課題解決意欲を引き出す授業を推進する。
- エ 教科の枠を超えた相互授業見学や学校の枠を超えた研究授業参加等をより推進し、そこで得られた改善点を生徒に還元することで、教員相互の授業力の向上を図る。
- オ 個人カルテ等を活用した個別面談指導を実施し、「自分でつくる、自分の未来」を合言葉に、自分の未来を創造する意欲を身につかせ、進路実現を目指させる。
- カ 生徒の実態から学カスタンダードの代替を推進し、オンライン個別学習を取り入れた学力の着実な定着を図る。
- キ 高大接続改革に向けた指導の開発と実施を具体的に推進する。

②進路指導（データを活用した学習・進路指導の推進）

- ア ライフプランに応じた科目選択が適切にできるよう指導し、将来を見通した視野と自己肯定感や自己有用感を育みながら、希望進路実現に向け進路選択力の向上を図る。
- イ 担当年次教科教員が全員参加して模試等の結果に基づく分析会を実施し、教科で対応策を検討し改善する。
- ウ 進路指導部が主導して、ファインシステムやClassi を活用した指導を一層推進させる。

③ 生活指導・安全指導（規律ある学校生活の推進）

- ア 生活指導指針を徹底するとともに、生徒が自ら誇りをもって、主体的に本校の生活規律を守る態度の育成を推進する。
- イ いじめの未然防止・早期発見・早期対応に取り組むため、学校いじめ防止対策委員会機能や学校カウンセリング機能を充実させ、学校全体で情報共有し、いじめ総合対策に基づいた対応をより推進する。
- ウ 校内研修を通して教職員同士が体罰に対して相互に看過しない体制づくりを推進する。
- エ 青梅総合SNSルールについて、生徒会が中心に検討し生徒へ周知していく環境を整備する。

④ 特別活動・部活動（生徒相互が高め合い磨き合う学校行事・部活動の推進）

- ア 各行事の達成感を高めるため、・放課後の準備時間の確保・新たな発想や取組を引き出す支援・組織的な運営や時間管理の指導・夏休みの有効活用の指導、等を継続する。
- イ 事前指導により、実行委員が自らの判断で動けるような自律的な行動力を育む。
- ウ 体罰や不適切な言動のない指導を前提に、卒業後も活動を前向きに生かす意思を育む、生徒が主役の部活動づくりを一層推進する。
- エ スポーツ特別強化校（剣道部）、スポーツ特別準強化部（陸上競技部）の指定を受け、運動部・文化部とともに相乗作用として部活動の活性化を推進する。
- オ 部活動単位で中学校との合同練習会や地域行事への参加等、工夫して地域貢献活動を継続する。
- カ 「夢・未来プロジェクト」を通じたオリンピック・パラリンピックへの機運を維持させ、積極的に2020大会に関わる意識の向上を育む。
- キ 「世界ともだちプロジェクト」では姉妹校交流推進校としてドイツとの交流を実施するとともにサブカテゴリー国との交流も推進し、国際交流のレガシー構築を図る。
- ク 日本の伝統・文化を発信する能力・態度の育成事業推進校としての施策を生かし、グアム修学旅行や姉妹校交流では日本の伝統文化の発信を重視し、オリンピック・パラリンピック教育を推進する。
- ケ TOKYO GLOBAL GATEWAY 事業を活用したグローバル人材育成を、1・2年次全員参加で実施する。
- コ 姉妹校交流の持続的可能な実施に向け、ホームステイ受け入れバンクの組織化を推進する。

⑤ 心身の健康づくり（健康生活への組織的対応の推進）

- ア 教員の受容的態度を基本に日常的に生徒の状況を把握し、全教員が必要な情報を共有するとともに、各学期初めには生徒の状況確認を確実にを行い、心身の健康づくりと早期ケアを一層充実させる。
- イ 配置されているスクールカウンセラーを活用した校内研修等を通じて、学校の相談体制・教員のカウンセリングマインドの向上を図る。
- ウ 特別な支援が必要な生徒への共通理解と組織的な対応を推進するため、特別支援コーディネーターを2名体制にして特別支援教育を推進し、個別案件に対して組織的に対応する。
- エ 「アクティブプラン to 2020」に基づいて体力向上を図り、心身の健康づくりを一層推進する。
- オ 自他の生命の大切さを実感させる取り組みを推進するため、組織的な相談体制を充実させ、生徒の心身の悩みに対応するとともにいじめ撲滅を強く決意していく。

⑥ 募集広報活動（情報発信・提供の強化と地域連携）

- ア ツイッターやホームページの随時更新の推進により、本校の教育活動をタイムリーに発信し、中学生やその保護者、地域の方々の本校に対する興味・関心および理解と信頼を得る。
- イ 総合学科としての組織的な取り組みやその成果を、「見える化」をより推進して情報提供していく。
- ウ 近隣中学校と連携を図り、中学校教員や中学生保護者の総合学科理解を一層推進する。
- エ 学校説明会や合同説明会等において本校理解を推進するため、効果的で印象的な広報手段を検討し、躊躇なく実施していく。

⑦ 学校経営・学校運営（連携と育成、体制の確立）

- ア 西部学校支援センター支所との連携を密にし、職務の効率化を図り学校経営の基盤をより強化する。
- イ OJT を活用して各職層の人材育成を図り、課題解決に取り組む活気ある校内体制を推進する。
- ウ 生徒や保護者、地域住民からのアンケートに基づいた「期待に応える学校づくり」を推進する。
- エ 管理職が率先して「ライフ・ワーク・バランス」を示し、全教職員の働き方改革を一層推進する。

(2) 重点目標と方策

- ① 考えさせる授業推進 「考えさせる」指導内容・方法の工夫と実践。
- ② グランドデザインを活用 「青総スキル」を教育活動に反映させ全校体制で活用。
- ③ 高大接続改革 様々な研修会での情報共有を図り学校として推進。特に農業系大学との連携強化。
- ④ 読書活動の推進 授業やHR等も含めた教育活動全体で図書館の意図的活用をより推進する。
- ⑤ 授業外学習時間の増加 各教科が計画的に推進。補習・補講体制の確立。自習室の積極的な活用。
- ⑥ 総合学科としての本校アピール 広域的に食農系及び豊かな国際感覚の育成をアピール。

令和2年度の数値目標と昨年度の実績

数値目標	平成31年度 実績	令和2年度 数値目標
① 進路決定率	100%	100%
② 大学合格者数		
ア 国公立大学合格者	ア 2名	ア 1名
イ 難関私立大学合格者(早慶上智理)	イ 0名	イ 2名
ウ 私立大学合格者(日東駒専以上)	ウ 36名	ウ 36名
エ 農業系大学合格者(ウ以外)	エ 14名	エ 15名
オ 看護系大学等合格者	オ 16名(全員合格)	オ 希望者全員合格
③ 資格取得		
ア 英語四技能(GTEC:GRADE4)	ア 73名	ア 30名
イ 漢字検定準2級以上	イ 26名	イ 30名
④ 進路決定満足度	令和2年度新規目標	100%
⑤ 部活動加入率	80%	85%
⑥ ツイッター・ホームページ 更新数	400回	310回
⑦ 図書館貸出冊数	2950冊	3000冊
⑧ 学校説明会等参加人数 (中学生・保護者合計)	2800名	3000名以上
⑨ 入学者選抜応募倍率		
ア 推薦入学	ア 2.56倍	ア 2.58倍
イ 学力検査	イ 1.34倍	イ 1.34倍
⑩ 農業科・家庭科 地域連携活動回数	40回	30回
⑪ 学校満足度(肯定的回答)		
ア 生徒	ア 76%	ア 80%
イ 保護者	イ 93%	イ 95%